

私たちの頬を撫でる暖かい風が、少しずつ姿を見せる春を予感させてくれる季節となりました。本日は、私たち卒業生の為にこのような盛大な卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、本日ご臨席賜りました山崎学長をはじめ、ご来賓の方々、教職員の皆様にも、卒業生一同、厚く御礼申し上げます。

思い返せば四年前、桜が満開の季節に、私はこの武蔵大学の門をくぐりました。これから始まる大学生活に胸を躍らせ、期待でいっぱいだった入学式。あの時は、大学生活の四年間がこんなにも早く過ぎ去っていくものだなんて思いもしませんでした。

私は経済学部金融学科に所属し、ファイナンス論や投資理論、会計学など、様々な分野の知識を学ぶことができました。初めて触れるこれらの講義はとても興味深く、一年次の私はすぐにのめりこんでいったのをよく覚えています。講義が終わった後は先生に質問をし、理解が深まるとますます興味が湧いて勉強が楽しくなる、ということの繰り返しでした。先生方はいつも私の話に真剣に付き合ってください、そして熱心に質問に答えてくださいました。

また、一年次から取り組んだゼミ活動も私を大いに成長させてくれました。通常の講義と違い、ゼミ活動は学生が集まって、主体的、能動的に行動しなければなりません。ゼミ生同士で議論することで、コミュニケーションの取り方はもちろん、情報を取得する手段、プレゼンする方法など、本当に様々なことを学ぶことが出来ました。この四年間を通して、最初は何となく捉えていた「ゼミの武蔵」という言葉の意味が自分の中にはっきりと刻み込まれました。

課外活動では、私はフライダルのアルバイトに一番精を出しました。目の前に結婚式を挙げる新郎新婦がいて、それをお祝いするゲストがいる。この人たちに出来ることは何だろうか？ということを考える。自分にできることをする。この人を喜ばせたい、という思いが通じた時、その人の顔はほころび、笑顔で「ありがとう」と言ってくれる。一生懸命考えたことが実った時、それは本当に嬉しいものです。もちろん大変なことやくじけそうになったこともありましたが、そんな時はいつでも励ましてくれる仲間がいました。辛いことを共感してくれ、喜びを一緒に分かち合える、大切な仲間です。一生をかけて付き合ってきたと思う友人が出来たのは、このフライダルのアルバイトのおかげです。

きっと、ここにいる卒業生誰もが、そういった経験をしていると思います。嬉しいことがあったり、一生付き合える友達が出来たり、もちろん楽しい思い出だけではないかもしれないかもしれませんが、それを乗り越えた経験も含めて、一生忘れられない思い出になるはずです。

私たちは今日、武蔵大学を卒業します。卒業生各々がそれぞれの進路へとかじを取り、まだ見ぬ大海原へと漕ぎ出していきます。行く先には、想像も付かないような困難と言う名の荒波が待ち受けているかもしれません。時にはその荒波を超えてゆく勇氣も力もそがれてしまうかもしれません。しかしそんな時こそ、私たちは思い出すのです。この武蔵大学で過ごした学生生活を。楽しかった思い出やかけがえのない仲間のことを。そしてこの記憶は、私たちにその荒波に立ち向かう勇氣を与えてくれます。困難を超えていく力をみなぎらせてくれます。いつしか荒波は消え、風となった海に、私たちはまた漕ぎ出していくことが出来るはずです。

そして、このような素晴らしい学生生活を送ることが出来たのは、先生方、大学職員の方々、同級生、先輩、後輩、そして両親を含む家族と、私たちに関わってくださったすべての皆様のおかげです。本当に感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。まだまだ未熟な私たちですが、武蔵大学で学んだことを胸に刻み、四月から始まる新たな環境で努力してまいります。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いするとともに、皆様のご多幸、ご健勝と、武蔵大学の更なる発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

平成二十九年三月二十二日

武蔵大学 第六十五回卒業生代表

経済学部金融学科 松本裕紀